



沖縄県がん登録室の紹介

琉球大学病院は沖縄県の都道府県がん診療連携拠点病院に指定されています。琉球大学病院がんセンターの中にがん登録室は組織され、がん登録実務者2名により年間約1,800件の登録を行っています。がん登録室の運営に関しては、各診療科医師、病理医、がん登録実務者等で構成されたがん登録室連絡委員会で協議を行っています。

沖縄県がん診療連携協議会ベンチマーク部会 およびがん登録ワーキンググループの概要

沖縄県がん診療連携協議会の専門部会のひとつとしてベンチマーク部会が設置されています。ベンチマーク部会では、がん登録実務者も委員として活動しています。また、各拠点病院のがん登録実務者が集まり、がん登録の質の向上などに関して協議するがん登録ワーキンググループを部会の下部に設置しています。これらの会議体の事務局はがん登録室が行っています。

がん登録室の業務内容

(1) ロジックモデルを用いたの沖縄県のがん対策の進捗管理

沖縄県のがん対策の進捗を管理するため、沖縄県がん対策推進計画の最終アウトカムや中間アウトカムなどのがん登録関連指標の抽出を行い、沖縄県がん診療連携協議会に情報提供を行っています。

(2) 沖縄県によるがん専門医療機関選定のためのデータ作成

沖縄県は、患者さんの病院選択に役立つように、がん種毎にがん専門的医療機関を独自の基準で選定しています。県から委託を受けて当院がん登録室では、がん専門的医療機関を選定する際に必要な施設別がん種ごとの症例数、手術症例数、薬物療法症例数、放射線治療症例数などのデータ作成を行っています。

(3) 離島・へき地におけるがん対策のためのデータ作成

がん登録データから、離島・へき地の罹患や治療の現状把握や、離島・へき地の医療機関のがん診療に関するデータを作成し、離島・へき地部会に情報提供を行っています。

➤ (4) 沖縄県院内がん登録報告書の作成

報告書は、県民目線での分かりやすい情報発信を目的とし、がん種毎の件数や各がんのステージ別の各種治療の件数などを18施設横並びで見やすく表示しています。がん診療連携拠点病院以外にも12のがん専門施設が参加しています(都道府県別罹患数に占める院内がん登録集計報告書参加病院登録割合84.4%)。

(5) DPC-QIを用いたがん医療の質向上の取り組み

院内がん登録データとDPCデータを用いて、がん診療の質指標(QI)を計測しています。さらに、データだけでは診療の実態を把握できない部分(併存症、年齢、患者の希望などの理由で標準治療を実施しない場合)は、がん登録実務者によりカルテレビューを行い、再計算を行っています。これにより臨床医へ信頼できるデータ提供ができ、がん医療の質向上に取り組んでいます。2020年度には報告書を発行・公開する予定です。

(6) 病院内(臨床現場)での利活用促進のためのデータ作成

臨床医の症例登録のための患者リスト作成、がん相談支援センターの患者さんへの情報提供のためのデータ作成を行っています。

(7) 学会活動

上記の活動を学会報告することにより、他県・他施設の情報収集を積極的に行っています。ASCO Quality Care Symposiumでもその成果を発表しました。

今後について

患者さんからの要望の多い生存率に関しては、がん診療連携拠点病院のみを施設別に公開しています。今後は、患者にニーズに合わせて、県内すべてのがん専門医療機関での計測・公開をしていく必要があると考えています。また、医療従事者向けには、院内がん登録データとDPCデータを用いたQIの計測とフィードバック活動を全県的に展開していきたいと考えています。さらに、がん登録データが、患者、医療従事者、行政などのあらゆる立場の方に利活用されるものになるため、がん登録データのみではなく様々な医療情報データベースとのレコードリンケージを行って多方面での分析が必要だと考え、沖縄県にも働きかけています。

Okinawa
沖縄県

琉球大学病院がんセンターがん登録室

登録室ご紹介